

## H 2 7—No. 2 7

### 正解 4

1. × 平成 24 年度と平成 25 年度のリサイクル率をみると、平成 24 年度は  $\frac{395}{468}$ 、平成 25 年度は  $\frac{435}{511}$  である。平成 24 年度から平成 25 年度をみると、分母は 43 増加し、468 の 10% は 46.8 より 10% 未満の増加となり、分子は 40 増加し、395 の 10% は 39.5 より 10% 以上の増加となる。よって、 $\frac{395}{468} < \frac{435}{511}$  となり、平成 23 年度以降は下降しているとはいえない。
2. × 平成 25 年度をみると、リサイクル重量は 435(千 t) であり、その 50% は  $435 \div 2 = 217.5$ (千 t) である。同年度の鉄とブラウン管ガラスのリサイクル重量は  $182 + 23 = 205$ (千 t) であるので、鉄とブラウン管ガラスのリサイクル重量はリサイクル重量の 50% 以上を占めてはいない。
3. × 平成 22 年度以降、廃棄物の処理重量が減少傾向にはあるが、その原因をこの資料から判断することはできない。
4. ○ 平成 19 年度と平成 24 年度の素材別リサイクル重量をみると、増加しているのは、鉄、銅・アルミニウム、非鉄・鉄等混合物、その他有価物であり、減少しているのは、ブラウン管ガラスである。鉄は、147(千 t) から 164(千 t) へと 17 増加しており、147 の 10% は 14.7 より、20% 未満の増加率である。銅・アルミニウムは、23(千 t) から 27(千 t) へと 4 増加しており、23 の 10% は 2.3 より、20% 未満の増加率である。非鉄・鉄等混合物は、59(千 t) から 65(千 t) へと 6 増加しており、59 の 10% は 5.9 より、10% 程度の増加率である。その他有価物は、82(千 t) から 108(千 t) へと 26 増加しており、82 の 10% は 8.2 より、20% 以上の増加率となる。よって、増加率が最も大きいのはその他有価物となる。そして、減少しているのはブラウン管ガラスのみであるので、減少率が最も大きいのはブラウン管ガラスとなる。
5. × 平成 18 年度のリサイクル率は  $\frac{343}{447} \approx 0.77$  なので、80% 以下である。平成 18 年度のリサイクル重量に占める非鉄・鉄等混合物の割合は  $\frac{65}{343} \times 100$  となり、この値が 25% になるためには、分数が  $\frac{1}{4}$  となればよいが、 $\frac{65}{343} \neq \frac{1}{4}$  であるので、値が 25% にはならない。